



特定非営利活動法人 Arts Planet Plan from IGA

# アトリエニュース

〒518-0205 三重県伊賀市伊勢路字青山1381-77 Tel(186-)0595-53-1077



[2021.03.20 発行 編集担当:芝田 真美]

春の訪れを感じる季節となりましたが、コロナ禍はまだまだ去りそうにもありません。このようなご時世ではありましたが、本年度は皆様のおかげで風と土のふれあい芸術祭や各活動も工夫を凝らして行うことができました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

## NPO 法人 Arts Planet Plan from IGA の活動を振り返って

2001年4月1日に伊賀市(旧青山町)伊勢路字青山の近鉄「西青山」駅そばの国道165号線沿いの現在地に念願のアトリエを開設し個人としての制作拠点を設けた。制作場所としてのアトリエ開設ではあったが、折角できた地域との縁を生かし、地元へ芸術文化や美術・工芸教育を通じた貢献が多少はできれば良いのかな、という思いもあった。特に彫刻シンポジウムやArtist in Residenceを開催してみたいとの希望もあり、どのようにすれば実現できるか、模索を始めた。その数年前に制定された特定非営利活動促進法を活用しNPO法人を設立して運営に活用してはどうかという意見もあり、法人設立への歩みを始めることにした。三重県津市の県庁のNPO室に何度か足を運び、設立のノウハウや事務手続きの方法をご教示頂いた。また、大阪市や上野市(現:伊賀市)の先行法人や法務局に話を聞きに伺ったり、定款(案)はじめ大量の書類を作成したり、理事や監査を引き受けて頂く方や会員になってくださる方への入会依頼などに時間を費やした。何とか設立に必要な10人以上の会員を確保し(実質は50名近い数となった)、2001年12月に設立総会を開催し法人設立の要件が整った。翌2002年5月1日に法務局に登録を済ませて、正式に法人が設立できた。初年度は、定款に従って、様々な事業を試行錯誤で運営した。会員の殆どが芸術系の非営利活動とは何かという概念も運営ノウハウも持ち合せていない中での、全員が手探り状態のスタートであった。事務局を担当して下さった方々は、設立時から現在に至るまでの間、永年にわたり継続して務めて頂いた方や入れ替わり立ち代わり可能な範囲・期間で協力して頂いた方々である。どの方にも感謝の念で一杯である。また、遠方にお住まいの方々は、会員として会費を納入して下さることで、活動にご支援頂いた。本当に有難いことである。深甚より感謝申し上げます。設立から3年ほど経過して、何とか年間の事業が定着し、運営の中身も充実してきた。

設立から現在に至る詳細は、今号で第75号を迎えるアトリエニュースに詳しく報告されているので、HPをご覧くださいこととし、この紙面では割愛させて頂く。ただ、NPO法人は、当然ながら、県への報告や法務局への登記がある。また、会員向けの事業も好きなことを適当にしているだけでは済まされない。会費を納めて下さる方々へ提供する様々な事業の準備や運営、そして、その事後報告も伴う。それらの事務的負担は想像以上に膨大で大変であった。しかし、様々な方々のご支援ご協力のお陰で、何とか現在までの約20年間、自転車操業さながらではあるが、法人を維持することができた。その間に得た様々な人々との繋がりや絆、お出合いが大きな精神的財産となった。この活動をしていなければ得ることができなかったものだろう。心から感謝申し上げます。個人的には、予定とは違う道を20年歩むことになったが、経験できなかった得難い体験をさせて頂く機会を沢山頂いたので、十分に満足している。

本法人は2021年度の総会で閉幕が審議される。会員の皆様方には、もう少し本法人の千秋楽まで、見届けて頂きたいと願っている。

残された残務処理は、膨大なものが予想される。続けるのも困難、閉じるのも多難である。その後は、当初の予定どおり、個人アトリエとして晴作雨読で日々過ごしたいと思っている。

お近くにお越しの際は、お気軽にお立ち寄りください。お待ち申し上げます。

法人は閉じることになるにせよ、法人の名前の通り、「地球芸術星構想」の思いは、様々なところで姿・形や方法を変え、発展・成長し生き続けることと信じている。

長らくのご支援ご協力を改めて感謝申し上げます。本当に有難うございました。

(設立者・代表理事:森田 耕太郎)



## 自主活動(庵プロジェクト)報告

今年はコロナ禍にもかかわらず、三人の新社会人が数回に分けて手伝いに来てくれました。密集した都会から疎の空間へ避難したい感覚もあったのでしょうか?いつものことですが、気持ち良く動いてくれます。

十数年前からのこの庵プロジェクトですが、やっと柱と梁が現れました。これから屋根というところですが、良くて月一の活動間隔なので、床板が腐る事も有り、貼り替えや塗装なども同時進行で少し進んでは少し戻る感じです。とりあえず、今年の姿を掲載しておきます。今後はどうなることやら?

(自主活動担当:石津 勝)



第3回実技講習会「和綴じ本づくり」につきましては、新型コロナウイルス対応の緊急事態宣言が発令されていたこともあり、期日までに参加申し込みがなく、不開催とさせていただきます。

講習を予定していました「鈴木松風堂」（京都）では、お一人様から和綴じミニ体験ができます。ご案内まで。（担当：森田佳子）

本年度、第4回実技講習会に予定していた「炭焼」がコロナ禍の影響で体験先が不開催となり、急遽、代わりに、今までできなかったことを自主的にできないかと考え、事務局会議で話したところ、かねがね希望が出ていた「みごほうき」や「釜敷き」を、稲わらを使って作りたいとの意見が出た。そこで、2020年度造形ワークショップ（藁工芸）として、2021年2月21日（日）に開催することにした。前号のアトリエニュースで募集したところ、事務局員を中心に7名の応募があった。農文協の「つくって楽しむ わら工芸」をテキストに、各自が試行錯誤しながら制作することにした。箒は事前の「みご取り」に時間が掛かるので、箒作りをしたい人は各自、「みご」の準備をして頂くこととした。また、釜敷きは「細縄」を「なう」のに時間が掛かるため、今回は一分（約3mm）の荒縄を代用することとし、それも各自準備して頂くこととした。当日は、テキストにとらめっこしながら悪戦苦闘の末、個性豊かな「みごほうき」や「釜敷き」ができた。

米作りの農業が盛んな時期には、農閑期の冬の仕事として、普通に各家庭で行われていた素材を生かす仕事が無くなっていくことは残念なことだが、このような場を利用して、再生可能な素材を活用したモノづくりが見直される機会になれば幸いである。

ご参加頂いた皆様、本当に有難うございました。

（実技講習会担当：森田 耕太郎）



### 自主活動（粘土カフェ）報告

「窯詰め」12月26日（土）に、窯の修繕と、窯の乾燥のためのあぶりなど窯詰め準備を行ない、翌27日（日）～29日（火）、42名の作品316点の窯詰めを行ないました。最終日午後には、焚き口を造り、再度、窯の修繕を行ないました。4日間の参加者は、のべ30名（うち一般13名）でした。

「窯焚き」年が明けて2021年1月3日（土）午前8時に火入れ、約98時間の焼成を行ない、5日目の7日（木）午前9時35分に窯を閉じました。焼成は順調で、3日目の朝4時半、目標温度の1200℃を記録してから、後の温度計で1200℃～1250℃の温度帯をキープしたままの焼成が、52時間続きました。前泊を含めた6日間の参加者は、のべ57名（うち一般31名）でした。

「窯出し」1月17日（日）に行ないました。奥の棚まで灰が十分に掛かり、変化に富んだ薪窯ならではの焼き上がりとなりました。午後は、窯の内外の掃除や、棚板などの備品の整備と片付けを行ないました。この日の参加者は、21名でした。

2005年に穴窯を築いてから15年が経ち、この度の焼成は、10回目。そして、陶芸自主活動グループ「粘土カフェ」主催の最後の窯焚きとなりました。コロナ禍の中で感染予防対策を講じながらのいつもと少し違う集まり方となりましたが、多くの方々のご理解の元、ご参加ご協力を頂き、怪我もなく無事に終了することができました。心から感謝申し上げます。

（粘土カフェ担当 田上早百合）



### 事務局からのお願い

◎ 本法人は皆様方からご納入了いただきました会費で運営されております。常々、ご協力ありがとうございます。

未納の方は、早めの納入にご協力をお願いいたします。2020年度より大人5口以上（学生3口以上）が原則となっております。

[郵便局] ゆうちょ口座：00890-1-106346 NPO アーツプラネットプラン フローム イガ

[他行～] ゆうちょ銀行 金融機関コード 9900 店番 089 店名 ○八九店（ゼロハチキュウ店）

当座 0106346 アーツプラネットプランフロームイガ

（会計：芝田 真美）